

速報！令和5年 一級建築士設計製図の試験 講評

2023年10月8日に実施された一級建築士設計製図の試験の講評を致します。

まずは本日の一級建築士設計製図の試験を受験された皆様、大変お疲れ様でした。

無事に描きあげることができましたでしょうか？

第一報として、試験の講評をどこよりも早くお届け致します！

まず、今年の課題の特徴になっている設計条件をざっと列記します。

1. 図書館

- ・要求室表には部門がなく、図書館以外の用途がない、純粹なる「図書館」の課題でした。
- ・敷地条件から、**施設利用者及び管理者のアプローチ**について、自由度の高い計画が可能であることから、悩んだ受験生が多かったと考えられます。
- ・要求室については、オーソドックスな要求室が多く、計画に迷う室は少なかったのではないのでしょうか。
また、「乳幼児連れに配慮した室」や「施設の運営管理に必要な室」については、適切に計画するとあり、必要な室を自ら考える設定でしたが、授乳室や子供用のトイレなど、また、管理事務室、職員更衣室などを計画すれば問題なかったと思われます。
- ・「**一般開架スペース**」には、合計 200 m²以上の部分に高天井（CH=3.7m以上）の要求がありました。「2層で計画する」または「階高を上げて計画する」など、どちらの方法も対応可能でした。
- ・「**荷解き配本スペース**」には、配本車の駐車スペースを設けるとありましたので、いわゆる**BM(ブックモビル)**の計画で、T A C の課題においても課題9で同内容について学習していたので十分対応できたと思われます。
- ・要求室表の床面積の要求については、「〇〇m²以上」がかなり多く出題されました。

2. 屋外施設

テラスや屋上テラスなどの要求はなく、シンプルな要求でした。

- (1) 駐車場：車椅子使用者用2台分の要求でした。施設利用者用及び職員の駐車場は、東側の公共駐車場を利用する設定でした。
- (2) 駐輪場：施設利用者用として、20台分以上の要求でしたので、最低の20台あれば十分でした。

3. 地盤条件(地盤略断面図)

近年ずっと出題されている「地盤略断面図」が今年も示されました。

既存建築物撤去範囲のうち、GL-4mの深い部分について、地盤改良で計画すれば問題ありませんでした。地盤改良については、T A C の課題4、課題5などで学習していたので十分対応できたと思われます。

4. 設備について

- ・ **空調方式**は、条件指定がありませんでしたので、単一ダクト方式、空冷ヒートポンプパッケージ方式などで計画すれば問題ありませんでした。
- ・ **エレベーター**については、「施設利用者用と管理者用とを別に設ける」という条件でしたので、利用者用 2.5m × 2.5m 以上、管理者用 2m × 2.5m 以上のサイズで計画すればよいでしょう。
- ・ 屋上に「**太陽光パネル**」の設置要求があり、道路斜線を避けた配置が必要で記述でも問われました。

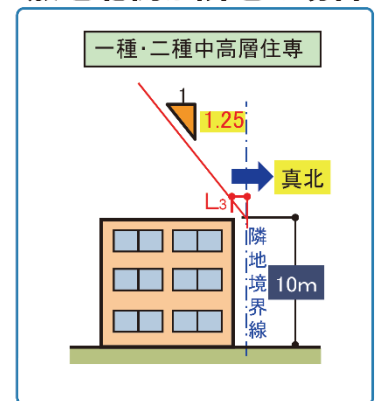
5. 法規について

- ・ 用途地域が「**第二種中高層専用地域**」でしたので、北側斜線制限を考慮した計画が必要でした。課題文の中に、北側斜線制限の斜線勾配の記載がなかったことから、気付かなかった受験生もいたのではないのでしょうか。なお、要求図書の断面図のところには、「高さ制限への適合が確認できる情報（道路・北側斜線、最小後退距離、計算式等）を記入する」とあり、この部分をきちんと読み取れたかがポイントです。T A C では北側斜線制限については、最後の**最終確認資料に掲載していました**。

なお、中高層住専の場合の北側斜線の注意点は以下のとおりです。

- (1) 北側の敷地境界線において、10mを超える部分から斜線がかかる。
- (2) **建築物の地盤面からの高さ** $\leq L_3 \times 1.25 + 10\text{m}$ を満たさなければならない。
- (3) 北側斜線については、道路斜線制限と違い、**塔屋は当たってはならない**。
- (4) 北側斜線については、**セットバック緩和などはない。公園については緩和もない**。

敷地北側が隣地の場合



6. 要求図書

- ・ 3階平面図に「塔屋部分の位置を破線で図示する」は、北側斜線を考慮した出題でしょう。北側斜線をクリアした塔屋の計画とともに、その図示漏れに注意が必要でした。
- ・ 断面図において、細かい内容の描き込みの要求があり、「道路斜線及び北側斜線、最小後退距離、計算式など」が漏れなく図示できたかがポイントです。

7. 計画の要点等について

- ・ 昨年の出題に類似した省エネや二酸化炭素排出量の削減について、問われました。
- ・ 屋上等に設置する設備などの配置計画について、比較的大きなイメージ図欄に図、イラスト等が求められました。

今年の本試験は、やはり近年の傾向通り「自由度が高い課題」であったと言えますが、難易度としては「**標準的～やや易しい**」と考えられます。

本課題の大きな特徴としては、

- ①北側斜線制限
- ②アプローチの計画
- ③屋上等に設置する設備について（記述）
- ④天井高を考慮した階高設定

などが挙げられ、この部分での取りこぼしのない計画が合否を分けるのではないのでしょうか。また、難易度がそれほど高くないと考えられることから、細かいミスもなく、作図密度の高い図面を描き上げられたかが重要になるのではないのでしょうか。

速報は、以上となります。

長時間にわたる試験、及び、これまでの長期間にわたる受験勉強、本当にお疲れ様でした。

皆様の努力が実り、合格されることを祈っております。

しばらくはゆっくりと休んでください。本当にお疲れ様でした。

2023 年 10 月 8 日 21 時現在

T A C 建築士講座